

<福島県教育長賞>

将来の私たちのために

伊達市立伊達中学校 3年 佐藤 優羽

みなさんは「税」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか。私は身近な税について考えました。

日本のお酒の消費率は20代が年々減少しているそうですが、全体の消費率で比べると高い数字にあります。私の住む福島県では日本特有の製法で醸造された日本酒が有名で、全国新酒鑑評会で金賞を受賞するなど、その人気が分かります。お酒には酒税があり、その使い道として様々なものが挙げられます。例えば一般財源として、国家公務員の人件費や地方交付税、国の歳出の財源として使われています。

学校やニュースでよく見聞きする「少子高齢化」という言葉。今、日本が抱える大きな問題の一つと言えるでしょう。私たちが納めた税金は身近なところで使われており、その一番多くが「社会保障」にかかわるものです。私たちの健康や生活を守るために、税金が使われているのです。しかし、医療、年金、介護、福祉などの公的サービスに税金を負担すると5年後、10年後どうなると思いますか。日本の高齢化は、世界に例を見ないほどのスピードで進行しています。総人口に対して高齢者の人口が増加していきます。今の社会保障制度で助けられた人が多くいますが、公的サービスの負担が上昇し続けると私たちや将来を担う世代に大きな負担が残ることになります。現在の日本ですら、社会保障給付に必要な費用の不足分を国の借金である公債によって、まかなっている状況です。そのため、公的サービスの内容を見直すことや対象年齢の変更など、どこまでを「公的サービス」として提供し、税金で負担するべきか、「公共サービス」と「税の負担」を考える必要があります。

「東日本大震災」日本に住む私たちなら、福島県に住む私なら誰もが知っている忘れてはいけない出来事。当時、私は一歳、震災の記憶は無いですが震災の出来事が悲惨さを物語っています。東日本大震災の復興のために復興特別所得税があり、被災し

た地域の復興は確実に進んでいるものの、復興完了への道は遠く、まだ税金が必要といえます。福島県では今もなお、帰還困難区域とされている場所があります。一日でも早く元のように暮らせる日がくることを祈っています。

私たちが、健康で豊かな生活を送れて様々な活動を行えているのは、税金があるからです。税金は国の基盤です。税金が無ければ私たちは生活できません。税金が抱える問題は大きいです。将来を担う私たちが、税金についての理解を深めれば、未来の日本が更に良くなるはずです。